

平成 29 年度工事監査 意見・要望事項措置状況報告書

2 意見・要望事項

部局名：総務部

意見・要望	
<p>(1) 前期工事における入札不調に続き、後期工事における建築工事及び空気調和設備工事においても重なる入札不調が発生した。</p> <p>建築工事においては、区の共同企業体に対する建設工事の発注取扱基準により共同企業体により発注したが、1 回目は 1 共同企業体しか入札参加希望がなかったため入札を中止した。2 回目は入札業者の格付けを緩和し、かつ最低入札参加者数を 1 者にしたが、入札に参加した 1 共同企業体が辞退して不調となっている。3 回目は更に条件を緩和し、単体での発注とした結果、7 者から入札参加希望があったが、辞退 6 者、1 者無効（積算内訳書記載不備）となり、不調による随意契約を締結した。</p> <p>また、空気調和設備工事においては、入札発注基準では区内業者のみの入札となっており、1 回目は 5 者の入札参加希望があったが、全者が辞退した。2 回目の入札では、区外業者も参加可能とし、6 者の入札参加希望があったが、全者が辞退し、他の関連工事とともに平成 29 年度中に工事を完了する必要があったため、入札に参加した業者と調整のうえ、随意契約を行った。</p> <p>今後の工事発注に当たっては、労務単価や工事資材の実勢価格の動向、国や東京都及び他自治体の対応など様々な要因を研究し、社会経済状況を適切に反映した発注に更に努められたい。</p> <p style="text-align: right;">(契約課・施設課)</p>	
所属名	措置状況等
契約課・施設課	<p>工事の発注に当たり、予定価格の積算については、最新の労務単価のほか、材料費等についても都が随時更新している標準積算単価を用いている。また、標準積算単価にないものは必要に応じて専門業者からの見積もりや建設物価に関する図書を活用し、実勢価格の反映に努めているところである。しかしながら、入札参加者の辞退等による入札不調が発生している現状を重く受け止め、区を取り巻く社会経済状況等を反映した適正な予定価格及び適切な工期を設定することで、契約手続きが円滑に進むよう更に努めていく。</p>

意見・要望

(2) 今回の後期工事の平成29年12月末日時点での進捗状況は、建築工事がマスター工程では72.9%のところ実質は66.2%、空気調和設備工事が45%のところ35%、給排水衛生設備工事が50%のところ40%、電気設備工事が80%のところ55%というように、大幅に遅れていた。

工事完成後の引っ越しの予定などから大幅な工期の変更は難しい状況の中で、工事の遅れを挽回することが求められていた。工期に無理を重ねることは、近隣対応などが必要となるばかりでなく、予期せぬ事故が起こる要因にもなりかねない。

工事は天候だけでなく、その他の様々な要因によっても、予定通りに進捗しないことが起こるものであることから、そのことを十分に想定しつつ、進捗管理に万全を期すようにされたい。

(施設課)

所属名	措置状況等
施設課	<p>今回の後期工事における遅れの主な要因は、施工者による施工計画作成の遅延、必要な協力業者の確保ができなかったことなどの工程管理上のミス積み重ねであったと考えている。区は毎週の定例打合せの中で工程確認を行い、その都度、施工者に対し改善の指示をしてきたが、こういった各工程の遅れの積み重ねにより、結果的に、非常に多くの工事を工期末に同時並行して行わなければならない状況になってしまった。</p> <p>施設課としては、人手不足という社会経済情勢を十分に把握し、少しの遅れにもより強い危機意識を持つ必要があったと認識している。施工者は、人員の確保に大変な困難を要し、遅れを取り戻す体制をつくるために非常に多くの時間がかかってしまった。</p> <p>これからも、ワークライフバランスの推進や2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催の影響もあり、人手不足の状況は続くと思われる。</p> <p>今後は、的確に建築業界の動向を把握し、適正な工期の確保、進捗管理方法の改善に努め、安全で円滑な工事実施体制の実現を図っていく。</p>